

防災委員からのメッセージ
防災委員（高崎経済大学名誉教授）大宮登



求められる地域防災意識の高まり

2024年1月1日、能登半島地震が発生した。マグニチュード3.5以上の地震が2日間で300回以上も発生する前例のない事態だ。家屋はバタバタと倒れ、たくさんの犠牲者が出た。生命や生活の維持を基本としながら、復旧・復興が始まっているが道のりは遠い。長引く避難所生活への対応、仮設住宅建設、「みなし仮設住宅」や公営住宅の提供、3月末までかかる見通しの水道の復旧、倒壊した建物の解体撤去、支援の拡大を阻む道路の復旧等々、本当に遠い道りである。一丸となって頑張ってもらいたい。

2011年3月11日には東日本大震災が起きた。私は文部科学省の委員として、2012年から2014年の間、福島、宮城、岩手の現状を訪ね歩いた。廃村化した福島原発地域、町全体が津波に飲み込まれた気仙沼、奇跡の一本松の陸前高田など、暗く悲しい出来事を巡るダークツーリズムのツアーに参加した。その記憶も生々しい時に、また大地震が発生した。東日本大震災でも能登半島地震でも、万が一を想定した地域防災計画や訓練の重要性が浮かび上がった。とりわけ、地域の中で必要な物資や資源を備蓄しておくことが大事である。電気や水道などのライフラインが止まった時の備蓄の在り方が問われている。防災委員として、この不幸な大地震を教訓として、地域防災意識の高まりを支援したい。

城山校区防災部会の活動
防災部会事務局

城山校区防災部会が昨年4月に発足して以降、以下の活動を実施しています。

防災部会は月次定例として開催し、防災関連情報共有、校区内の自助・共助活動を主体に議論を重ねています。今回、初めて「まち歩き」を2月24日に行いました。

「まち歩き」は、防災の観点で町内の懸念個所を防災部員、町内役員で確認、記録していきます。町が出来て以来相当の年数が経過し、倒木、がけ崩れなどの懸念個所があります。この状況を「まち歩き」で確認し、年々の記録として残していきます。防災部会ではこの記録を元に災害に対処する為の検討を行います。今回のまち歩きの結果は、次号の防災新聞でお知らせする予定です。

令和 5 年度 城山校区の防災活動

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
城山校区防災部会	発足											
防災部会	△	△	△	△	△	△	△		△	△		
防災新聞												
防災訓練												
防災講話												
備品展示開始												
自助活動マニュアル配布開始												
防災備品管理表												
まち歩き												

能登半島地震では、生活インフラの崩壊（断水、停電、道路通行止め等）により被災者の方々は実に困難な状況が続いています。被災された方々が断水、停電などで困窮されているニュースをご覧になったと思います。改めて「日頃の備えが大事だね」を再認識させられました。

防災部会では各町内で取り組んでいた防災備品管理を**校区内の防災備品管理ルール**として定めました。

- ・町内ごとに防災備蓄品管理者を定め、管理者の元で防災備蓄品管理をしっかりとやります。
 - ・3町内の防災備蓄品の数量、保管場所をまとめた備蓄管理表を作成し、防災委員が各々保有します。
 - ・まさかの時は、3町内の備蓄品を相互利用できるルールを定めました。 まとめて見ると、まだまだ不足している事が分かります。毎年、高崎市の補助金を元に備蓄品を揃えていきますが、特に、飲料水、非常食など個人で使用するものは、町の備蓄ではとても足りません。各家庭での備蓄が欠かせません。
- 各家庭で備えに取り組んで頂きます様よろしくお願い致します。

＜校区の備蓄品の状況＞ 紙面の制約上水と食料について説明いたします。

- ・校区内の防災備蓄品は一丁目集会所、二丁目防災倉庫、城山小体育館、見晴台公民館にあります。（城山小体育館には高崎市が管理している物と二丁目管理している物があります。）
- ・飲料水 校区内の飲料水の合計は、ダンボール32箱 一人一箱（3日分）ですので約30人分です。
- ・非常食 校区内の非常食は、乾パン、ビスコ、防災食、パックカレーなどがありますが、水同様に数十名（3日）分です。体育館には高崎市が所管する備蓄品がありますが、同様に水、食料はわずかです。
- ・自助、共助とは言いますが、「水、食料の備蓄」は、まずは自助（各家庭での備蓄）をお願いします。

始めましょう防災備蓄！ 今回は停電への備えです ご自宅の状況をチェックをしてみましょう
停電が発生して厳しいのは電気が欠かせない真冬あるいは真夏です

- ・明かり確保は大丈夫ですか？ 電池は十分にありますか？

手元（スマホ、携帯は便利）、足元（寝ている部屋にライトを常備）、台所、部屋明かり、電池がどこに何が置いてあるか、この機会に確認してみてください。



カセットコンロ

- ・体温維持は大丈夫ですか？ 体温維持はどうしますか？

冬場の体温維持は非常に重要です。真夏でもお年寄りの熱中症に注意が必要です。

石油ストーブはすぐに出せますか。灯油はありますか？



- ・災害情報は何かからとりますか？ 停電の時、テレビは見られません。

まずはスマホ、携帯で停電の情報を調べる。電池式ラジオも役に立ちます。

広域停電の場合、復旧には何日もかかります。 電池は十分ありますか？

- ・飲食は大丈夫ですか？ 停電時にどうやって食事を作りますか？

暖房が取れない場合、暖かな食事がが必要です。カセットコンロはありますか？

衛生面管理と常備薬で体調維持が大切です。特に水、飲み物、食べ物には

十分留意しましょう。この機会に保存食、水、コンロなどを確認しましょう



停電時に必要な電池の目安

- ・冷蔵庫は夏場の停電時には中の食品管理が大事です。

冷蔵庫は夏場なら短時間で温度が上がります。食品の状態を見て安全に食べる生活の知恵を働かせましょう。

- ・トイレ、風呂が使えない

災害では停電と断水が同時に起こる事があります。そうになるとトイレも風呂も使えません。簡易トイレを使う事になります。

